

評価プロセスを共有する参加型評価と社会福祉実践の系譜

—住民・当事者・スタッフが主体者となるリカバリー志向の評価アプローチ—

○ 東京福祉大学 氏名 藤島 薫 (5592)

キーワード：参加型評価、評価プロセス、リカバリー

1. 研究目的

社会福祉実践は、人々が自分らしく生活していくことを目的とした様々なアプローチによる実践の総体である。それぞれの個別の目的に対して社会福祉実践がどのような結果や効果をもたらしたのかという「評価」の必要性が高まっている。「評価」とは物事の値打ち、重要性を体系的に明らかにすることであり (Scriven, M.)、供給するシステムに対して、何が役立つのかということ判断するために、一定の哲学と方法によって定義されている (安田節之・渡辺直登)。社会科学的アプローチ、実用主義的アプローチ (M.Q.パットン)、参加型アプローチなど多様な「評価」が発展し評価目的に応じて使用されている。参加型アプローチによる「参加型評価」は利用者をはじめスタッフや資金提供者などの利害関係者が評価プロセスに参加しどのような変化を体験したのかということに重点を置くもので、従来型の評価者による「評価」とは異なるアプローチである (源)。評価参加者が何を目的とした「評価」なのかを明確にして評価設計が決定されることから、権利意識と主体性が促進されエンパワメントとリカバリーの実現、そして事業やプログラムの改善につながることを期待され、社会福祉実践の価値観と非常に親和性の高いものであると言える (藤島)。

本研究の目的は、参加型評価と社会福祉実践の系譜を整理し、参加型評価が住民・当事者・スタッフの主体性を促進しリカバリー志向の評価アプローチであることを検討することである。

2. 研究の視点および方法

本研究は「参加型評価」の価値観と社会福祉実践の価値観の親和性に視点をおくものである。よって、研究方法は第一に、参加型評価の理論的背景と評価方法と社会福祉実践の系譜との関係性を整理する。第二に、参加型評価の社会福祉実践プログラムへの適用からリカバリー志向の評価アプローチであることを検討する。

3. 倫理的配慮

本報告は一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき、調査対象者に対して研究の目的及び研究結果の使用については個人情報保護を厳守することを書面で説明し同意を得て行っている。

4. 研究結果

参加型評価が登場した背景には二つの流れがある。一つは1960年代にはじまった「実

用型参加型評価」で、全米の社会事業評価の活用へのニーズから起こっている。国家財源による社会政策プログラムに対する説明責任から厳密な科学的評価への傾倒が、結果的に評価を必要とする人々に適切に活用されていないことが危惧されたことによる。もう一つは「変革型参加型評価」で、社会開発や当事者の自立・エンパワメントを目指したアクションリサーチなどの活動から起こったものである。公民権運動、当事者運動、社会福祉実践における当事者主体の価値観などが背景となっている。社会福祉実践がノーマライゼーションの理念に基づくようになると同時にその評価アプローチが密接に関連しながら「参加型評価」も発展してきたのである。

社会福祉実践プログラムへの「参加型評価」適用を二つの事例に対して行った。一つは障害者総合支援法に基づき設置されている地域活動支援センターにおいて利用者とスタッフおよびボランティアによる「参加型評価」である。もう一つは、精神に障害を持つ当事者と協働で行った社会的偏見撲滅と若者への早期支援を目的としたプログラムへの「参加型評価」適用である。いずれの結果も当事者や利用者の主体性が促進されることによって個々のリカバリー体験が生まれていくことを確認することができた。また、利用者とスタッフの開かれた対話によってプログラムの評価と改善へのサイクルが起きることも実感することができた。

5. 考 察

評価者によって行われた調査や測定によって得られた結果が「評価」であるという認識から、その調査結果からどのような「価値」を見出すのかというのが「参加型評価」である。モダンとポストモダンの議論があるが、科学的根拠に基づいた説明責任と自立支援を目的とする当事者主体の理念は双方ともに社会福祉実践の重要な価値である。「参加型評価」が参加者視点の偏りから外部への説明責任が弱いという課題があり、今後は参加者の評価目的による評価手法と具体的な実施方法についての検討を深める必要があると考えられる。

【参考文献】

Scriven, M., *Evaluation Thesaurus* (4th Ed), CA: SAGE 1991

安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』新曜社 2008年

Cousins, J.B., & Whitmore, E., *Framing Participatory Evaluation: Understanding and Practicing Participatory Evaluation*, Whitmore, E., (Ed), *New directions for Evaluation*, 80, CA: Jossey-Bass, 1988, pp.5-23.

源由利子「参加型評価の理論と実践」三好皓一編『評価論を学ぶ人のために』世界思想社 2008年 pp.95-112

M.Q.パットン著 大森彌監修 山本泰・長尾眞文編『実用重視の事業評価入門』清水弘文堂書房 2001年

藤島薫『福祉実践プログラムにおける参加型評価の理論と実践』株式会社みらい 2014年

【追記】

本研究には、平成 21-22 年度科学研究費挑戦的萌芽研究『青年期における精神疾患早期支援プログラム開発に関する研究』（研究代表者藤島薫）による成果が含まれている。